近代的な集出荷場竣工

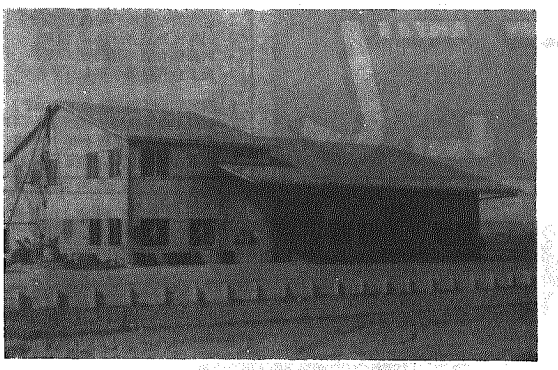
千万円農業をめざす

都市近郊の生鮮野菜の供給地として知られている沢海地区に野菜集出荷施設が建設され、このほど竣工しました。

この集出荷施設は、鉄骨一部二階建七一九平方米の建物と、付帯施設としてベルコン六台、自動梱包機リフト各一台、土壌消毒機五台を導入したもので、この事業は、国の野菜新産地育成緊急対策の一環として横越農協が事業主体となり、総額四、八〇〇万円（うち国県費一、七六三万円　村費一五〇万円）が投入されました。

沢海地区は昭和四十八年、県の野菜適地地帯の診断をうけ、有望性が認められましたが、生産面や流通面での近代化のおくれを指摘され、昭和四十九年、五十年の二カ年に渡り、沢海特産蔬菜組合が事業主体となり園の畑作地域集団営農パイロット事業を実施し、トラクター、トレンチャー等の高性能機械を導入、生産面では活気的な近代化が図られました。

今回、横越農協が実施した野菜新産地育成緊急対策事業による集出荷施設は、流通の近代化を図る一大事業で、生産から流通までの一貫体制が確立されたものといえます。又、これを機会に地区では、従来の作目別出荷組織を整理統合し、新たに沢海園芸生産出荷組合を発足、沢海地区がめざす一、〇〇〇万円農業、特産園芸団地の形成が、着々と進められることになりました。



沢海地区に建設された近代的集出荷場

1.収益的収支

（単位：千円）

収入		支出	
1.給水収益	32,876	1.原水及び浄水費	17,786
2.その他営業収益	344	2.配水及び受託工事費	6,033
3.預金利子	66	3.総係費	8,348
4.雑収益	770	4.減価償却費	2,522
		5.資産減耗費	29
		6.その他営業費用	3
		7.支払利息	1,457
計	34,056	計	36,178

収支差引　△ 2,122千円　当年度損失

2.資本的収支

収入		支出	
1.損益勘定留保資金充当	2,205	1.給水施設費	96
		2.施設工事費	635
		3.企業償還金	1,474
計	2,205	計	2,205

3.業務量

事項		単位	51年度	50年度	比較 増減	比較 比率
年度末給水人口		人	7,789	10,246	△ 2,457	76.0
計画給水人口		人	10,000	12,000	△ 2,000	83.3
普及率		%	100	98.6	1.4	101.4
年度末給水栓数		栓	1,724	2,180	△ 456	79.1
配水量	年間	m³	800,480	827,422	△26,942	96.7
	一ヶ月平均	m³	66,707	68,952	△ 2,245	96.7
	一日平均	m³	2,193	2,261	△ 68	97.0
有収水量	年間	m³	681,210	704,141	△22,931	96.7
	一ヶ月平均	m³	56,768	58,678	△ 1,910	96.7
	一日平均	m³	1,866	1,924	△ 58	97.0
一日最大配水量		m³	3,388	3,378	10	100.3
有収率		%	85.1	85.1		100

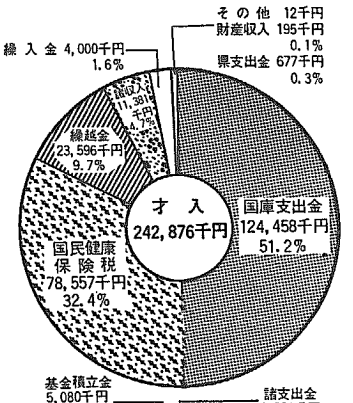
供給単価　給水収益 32,876,160 ÷ 有収水量 681,210 ＝48円26銭

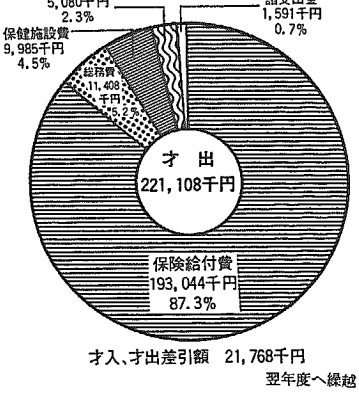
給水原価　総費用36,177,879－受託工事費0 ÷ 有収水量 681,210 ＝53円11銭

―公域簡易水道事業―

昭和五十一年度 むらの特別会計決算

―国民健康保険事業―





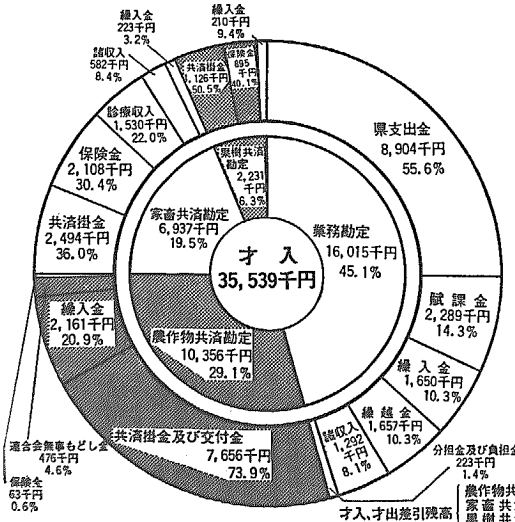
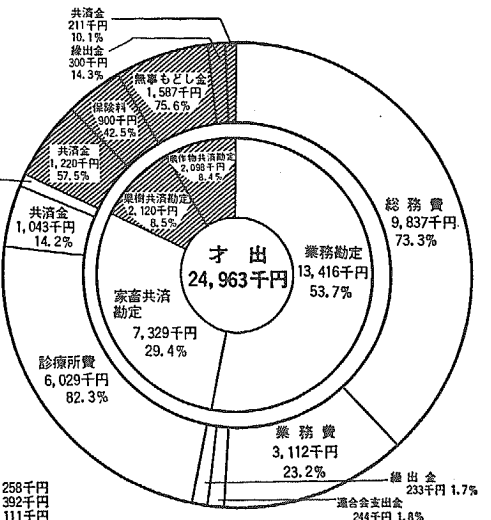
才入、才出差引額　21,768千円

翌年度へ繰越

税金は、皆さんの日常生活の中でいろいろな面にかかわりあいを持っています。そこで、生活と深いつながりを持っている税金について、皆さんにその行方や仕組みを正しく理解していただくため、11月11日から17日まで「税を知る週間」が実施されます。

この期間中、税務署では巡回税務相談、座談会、租税教室など各種の行事を行いますが、皆さんもこの機会に大いに税の知識を吸収してください。

なお、税についての相談は『税を知る週間』中に限らずいつでも皆さんからの税務相談に応じております。お気軽に税務署、税務相談室をご利用ください。

（新潟税務署より）

―農業共済事業―